

## お客様のプロフィール



## 事業者名

株式会社ヒロメンテナンス商会

## 事業概要

金属製品の製造

## 従業員数

30名

## 長年培ってきたデジタル化の取組と自社の強みである技術の融合

## 導入前の問題・課題

図面見間違いのミスが多く、ロスが大きかった。



## 選んだ理由

社員からの提案もあり、タブレットを導入した。



## 導入の効果

タブレット上で図面を拡大して見ることができ、効率化とミスの防止に大いに役立った。

今から10数年前に導入したタブレットが当社のデジタル化の最初の取組でした。当時社内にはプログラマーがシステムを作り、その後改良を重ねることで、自社独自の生産管理システムを構築していきました。

当社で取り扱う製品は、多品種小ロットなので、決まった工程、作り方で製作するものは少なく、それぞれの製品に応じた作り方が必要で、それゆえに製作時に図面の読み間違い等によるミスが多数発生してしまい、大きなロスとなっていました。また、納期管理の面でも見える化ができていませんでした。

そこでタブレットを各作業場に設置して、常に作業の進捗状況を確認できるようにしました。生産管理システムには図面も紐づけられて、タブレット上で拡大して確認することができるようになったことで、図面の読み間違いによるミスも軽減されました。

タブレット（生産管理システム）には、作業の効率化とミス防止という観点がありますが、これまでの注

文履歴がデータに残っているので、新たな製品を作る時にも、過去に製作した図面を参考にしたりしています。

他には、3Dプリンターやデジタル溶接機、レーザー切断機といった機器を導入していますが、これは弊社社長が柔軟な考え方を持っていて、ミス防止や効率化に向けた導入であれば積極的に設備投資を行ってきたからだと思います。

他方で、手板金といった職人の五感を使った作業はデジタル化には不向きであり、デジタル化できないものとデジタル化できないものを分けて考えています。

このたび選定いただきました「はばたく中小企業・小規模事業者300社」の反響も大きく、今後も多様な顧客ニーズに対応し、さらなる技術の追求・調整を続けていきたいと思っています。

渉外マネージャー  
河村 宏幸 氏

検討中の方へ  
メッセージ

ひとつのデジタル化がきっかけとなり、その経験が蓄積されることで、さらなる業務改善や事業拡大にも繋がっていきます。